

2019年度総会のお知らせ

開催日: 12月8日(日)

会場: サンケイホールブリーゼ

<https://www.breeze-plaza.com/access/>

講師: 夏堀礼二先生

OJ相談役 : 日本口腔インプラント学会専門医(第299号)



1986年 岩手医大歯学部卒

1992年 青森県八戸市にて開業

日本口腔インプラント学会専門医

日本顎咬合学会認定医

日本補綴歯科学会会員

日本臨床歯周病学会会員

日本デジタル歯科学会会員

A. O会員

E. A. O会員

A. A. P会員

OJ(特別顧問)

3Dアカデミー顧問

Club22会員

Naoshi.perio.club副会長

タイムスケジュール

13時半～ 総会

14時～ 講演会 夏堀礼二先生

17時～ 忘年会

費用:

会員: 無料

お申し込みはジャシドHPよりお願い致します。

<http://www.jacid.jp>

JASID 2019

演題「長期的観点からインプラント上部構造のデザインと材料を考察する」

～デジタルデンティストリーの活用～

インプラント治療が欠損補綴の選択肢のオプションとして世界中で認知され、我が国においても多くの患者がその治療を受けており、超高齢社会におけるインプラントのメンテナンス療法の重要性も言われてきた。そして、長期観察の中で歯根膜を持たないインプラント治療を成功に導くために、最も重要なことは、フレームワークの適合精度と強度と清掃性、そして咬合面材料の耐久性である。そうした中早くからデジタルテクノロジーが発達したのが、CAD/CAM技術の普及である。これによって材料の変化ももたらした。従来のロストワックス法から、チタンやコバルトクロームといった生体親和性の高い金属のブロックやディスクを切削加工で作製出来るようになった。一方で比較的新しい素材であるジルコニアも大きな変化を迎えている。初期の強度はあるものの、透光性が低く表面には強度の弱い陶材を築盛しなければ臨床に使用できなかったが、この陶材の破折をよく経験した。その後マルチレイヤードや高透光性前歯部用のモノリシックジルコニアが開発されるが透光性をあげると強度の低下を招き、ブリッジやインプラント上部構造に使用できなかった。しかしようやく超透光性でありながら強度もあるマルチレイヤードのインプラント上部構造用ジルコニアが開発された。

また、各社から精度の高い口腔内スキャナーの登場でようやくフルデジタルワークフローが確立され、今後さらなるデジタルの融合が期待される。そこで今回は、長期的観点から考慮したインプラント上部構造のデザインおよび材料、そしてIOSを用いたデジタルワークフローについて解説したい。

夏堀礼二